

津山工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	英語Ⅳ	
科目基礎情報							
科目番号	0082		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	総合理工学科(情報システム系)		対象学年		4		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	What in the World (南雲堂) Successful Keys to the TOEIC Test INTRO (桐原書店) その他プリント等。辞書は必ず持参のこと。						
担当教員	山口 裕美,ランボー エリック,近藤淑子 (一般)						
到達目標							
[学習目的] 環境問題に関連した語彙, 文法, 発音を学ぶ。共に学ぶ気持ちを大切にしながら, プレゼンテーション作成の基礎を学ぶ。TOEIC用のリーディングとリスニング能力を向上させる。 [到達目標] 1.相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。 2.環境問題やTOEICに関連した語彙の標準的な発音を聴き, 音を模倣し,つづりと音との関係を理解できる。 3.環境問題を考える課題を通してクリティカルシンキング力をつける。 4.適切な文法を使って, 基本的なプレゼンテーション原稿を書ける。 5.◎日本語と英語を用いて, 相手の意見を聞くことができ、効果的な説明方法や手段を用いて, 自分の意見を伝え、円滑なコミュニケーションを図ることができる。							
ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目1	相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度がよく身に付いている。		相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付いている。		相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度がおおむね身に付いている。		英語でコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付いていない。
評価項目2	環境問題に関する英語及びTOEICに関連した語彙の標準的な発音を聴き, 音を模倣し,つづりと音との関係をよく理解できる。		環境問題に関する英語及びTOEICに関連した語彙の標準的な発音を聴き, 音を模倣し,つづりと音との関係を理解できる。		環境問題に関する英語及びTOEICに関連した語彙の標準的な発音を聴き, 音を模倣し,つづりと音との関係をおおむね理解できる。		環境問題に関する英語及びTOEICに関連した語彙の標準的な発音を聴き, 音を模倣し,つづりと音との関係を理解できない。
評価項目3	プレゼンテーションの基礎をよく理解できる。		プレゼンテーションの基礎を理解できる。		プレゼンテーションの基礎をおおむね理解できる。		プレゼンテーションの基礎を理解できない。
評価項目4	適切な文法を使って, 基本的なプレゼンテーション原稿がうまく書ける。		適切な文法を使って, 基本的なプレゼンテーション原稿が書ける。		適切な文法を使って, 基本的なプレゼンテーション原稿をおおむね書ける。		適切な文法を使って, プレゼンテーション原稿が書けない。
評価項目 5	英語を用いて, 相手の意見を聞きことができ、効果的な説明方法や手段を用いて, 自分の意見を伝え、円滑なコミュニケーションを図ることがよくできる。		英語を用いて, 相手の意見を聞きことができ、効果的な説明方法や手段を用いて, 自分の意見を伝え、円滑なコミュニケーションを図ることができる。		英語を用いて, 相手の意見を聞きことができ、効果的な説明方法や手段を用いて, 自分の意見を伝え、円滑なコミュニケーションを図ることがおおむねできる。		英語を用いて, 相手の意見を聞きことができ、効果的な説明方法や手段を用いて, 自分の意見を伝え、円滑なコミュニケーションを図ることがよくできない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：一般 学習の分野：英語・国際コミュニケーション推進プログラム 必修・必履修・履修・履修選択・選択の別：必履修 基礎となる学問分野：英語学・英米 / 英語圏文学・言語学・音声学 学科学習目標との関連：本科目は「①教養豊かな実践的人間力の養成」, 「⑤グローバルな視点と社会性の養成」, 「⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力の育成」であるが, 付随的には「(B) 地球的視野に立った人間性の育成」に関与する。 授業の概要：技術英語及びTOEICの語彙, 文法, リスニングを学習する。研究レポート及びプレゼンテーションの作成を行う。						
授業の進め方・方法	授業の方法：環境問題についてリサーチし、考え、コミュニケーション能力を高めるためのグループワークを行う。さらに、学習した内容を元に、発表原稿Noteを付けたパワーポイント作成にフォーカスを当てる。TOEICでは、テキストを用いて様々な活動をおこない、問題演習をする。 成績評価方法：4回の定期試験の結果を同等に評価する 50% 課題提出 40% TOEIC IP Test 10% 試験には教科書・ノートの持込みを許可しない。場合によっては再試験を実施する。						
注意点	履修上の注意：本科目は学年の課程修了のために履修が必須である。 履修のアドバイス：授業には積極的に参加し、課題は必ず期限内に提出すること。 基礎科目：英語Ⅰ（1年）, 英語表現Ⅰ（1）, 英語Ⅱ（2）, 英語表現Ⅱ（2）, 英語Ⅲ（3） 関連科目：国際英語論Ⅰ（4）, 英語Ⅴ（5）, 国際英語論Ⅱ（5） 受講上のアドバイス：プリントが多数配布されるので、各自ファイルを準備すること。TOEICの課題も含め、環境学習内容をまとめたNote及びパワーポイント課題を確実にし、期限を必ず守る事。英語が将来の自分のキャリアにとって必要だと自覚し取り組むこと。TOEICはCDを繰り返し聞く事。授業開始後の入室は遅刻とみなし、2回の遅刻で1単位時間の欠課とする。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス（予習・復習など学習法の説明, 受講上の注意）			新出単語・文法を学ぶ。	
		2週	What in the World 1. TOEIC Unit 1			"	

後期		3週	What in the World 2, TOEIC Unit 1	"
		4週	What in the World 3, TOEIC Unit 2 PPT 1 with Note	十分に説明されたNoteを付けたPPTを書くことができる。
		5週	What in the World 4, TOEIC Units 2-3	新出単語・文法を学ぶ。
		6週	What in the World 5, TOEIC Unit 3	"
		7週	まとめと中間試験対策	試験前の復習をする。
		8週	(前期中間試験)	
	2ndQ	9週	前期中間試験の返却と解説	新出単語・文法を学ぶ。
		10週	What in the World 6, TOEIC Unit 4	"
		11週	What in the World 7, TOEIC Unit 4-5	"
		12週	What in the World 8, TOEIC Unit 5 PPT 2 with Note	正しい文法で十分に説明されたNoteを付けたPPTを書くことができる。
		13週	What in the World 9, TOEIC Unit 6	新出単語・文法を学ぶ。
		14週	まとめと期末試験対策	試験前の復習をする。
		15週	後期末試験	
		16週	後期末試験の返却と解答解説	
	3rdQ	1週	What in the World 10, TOEIC Unit 7	新出単語・文法を学ぶ。
		2週	What in the World 11, TOEIC Unit 7-8	"
		3週	What in the World 12 TOEIC Unit 8	"
		4週	What in the World 13, TOEIC Unit 8 PPT 3 with Note	正しい文法で十分に説明されたNote付きのPPTを書くことができる。
		5週	What in the World 14, TOEIC Unit 9	新出単語・文法を学ぶ。
		6週	What in the World 15, TOEIC Unit 9	"
		7週	まとめと中間試験対策	試験前の復習をする。
		8週	(後期中間試験)	
	4thQ	9週	後期中間試験の返却と解説	新出単語・文法を学ぶ。
		10週	What in the World 16, TOEIC Unit 10	"
		11週	What in the World 17, TOEIC Unit 10-11	"
		12週	What in the World 18, TOEIC Unit 11 PPT 4 with Note	正しい文法で十分に説明されたNote付きのPPTを書くことができる。
		13週	What in the World 19, TOEIC Unit 12	新出単語・文法を学ぶ
		14週	まとめと期末試験対策	試験前の復習をする。
		15週	後期末試験	
		16週	後期末試験の返却と解答解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	

				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	3	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	

評価割合							
	試験	TOEIC IP	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	50	10	0	0	30	10	100
基礎的能力	50	10	0	0	30	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0